

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公益財団法人東京YWCA社会福祉事業部として、キリスト教を基盤とした一人ひとりを大切にする考え方 2) 学童クラブを第二の家庭として、子どもにとって安心安全な居場所とする 3) 保護者が安心して子どもを預けられるように信頼関係を築く 4) 職員が安心して働くことができ、仕事と生活が充実するような場とする 5) 学校や地域と協力して子どもを見守り育むことができる関係性を築く
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>小さき弱き存在としての子どもに手を差し伸べ、成長を支援することができる人。 保護者や同僚など、誰をも差別することなく、平等に対応できる人。 子どもの個性を尊重し、自主性を重んじ、子どもの意見に耳を傾けて行動できる人。 子どもが挑戦したり、感動したり、喜んだりすることに寄り添える大人。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>常勤職員や資格を保有する非常勤職員に、学童クラブの役割を認識して、子どもの成長を支援することに努力してほしい。 全職員に、子どもに対応するのに役立つ能力や技術を身に着けるよう研鑽を積んでほしい。 常勤職員には、非常勤職員が能力を活かせるように役割を考えて仕事配分をし、また職員自身も成長するように見守ってほしい。</p>

調査対象

調査日現在、当事業所の利用登録者総数である47名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生15名、2年生10名、3年生12名、4年生1名であった。

調査方法

事業所と連名の依頼文を同封し、事業所から配布してもらうアンケート調査を実施した。アンケートは利用者に直接用紙を渡し、封をして提出してもらった。

利用者総数

47

共通評価項目による調査対象者数

アンケート	聞き取り	計
47	0	47
38	0	38
80.9	0.0	80.9

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が100.0%であった。
 総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の92.1%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が7.9%であり、大変高い満足度が得られている。
 項目別では、＜生活について＞に関する5設問は1設問において、大変高い満足度であった。「学童での生活や遊びは楽しく興味が持てるか」では、86.8%の大変高い満足度が得られている。ただし「あなたの考えを聞いてくれるか」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。
 ＜安心・快適性＞に関する4設問は2設問において、概ねの利用者が満足とする回答を得られている。ただし「学童クラブ内の清潔な環境」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。
 ＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は「職員は秘密を守ってくれるか」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。
 ＜嫌なことや、してほしいことについて＞に関する2設問は全設問で、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	33	3	2	0
「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が7.9%、「いいえ」が5.3%であり、大変高い満足度であった。自由意見では、「外あそび」、「ぜんぶすき」、「お友だちとドッチビーをするのがたのしいです」という声が聞かれた。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	16	14	0	8
「はい」が42.1%、「どちらともいえない」が36.8%、「無回答・非該当」が21.1%であった。自由意見では、「友だちとあそぶことが多かった」という声が聞かれた。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	30	5	1	2
「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が13.2%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」が5.3%であり、高い満足度であった。自由意見では、「おやつがおいしくて楽しい」、「アイスがすき」、「アイスとかもうちょっと食べたいし、ラーメンを出してほしい」という声が聞かれた。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	14	8	0	16
「はい」が36.8%、「どちらともいえない」が21.1%、「無回答・非該当」が42.1%であった。自由意見は特になかった。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	19	8	3	8
「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が21.1%、「いいえ」が7.8%、「無回答・非該当」が21.1%であった。自由意見は特になかった。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	11	14	6	7
「はい」が29.0%、「どちらともいえない」が36.8%、「いいえ」が15.8%、「無回答・非該当」が18.4%であった。自由意見では、「きれい」、「いつもマンガがいっぱい落ちてて嫌だ」、「トイレがきたない」という声が聞かれた。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	24	6	3	5
「はい」が63.1%、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が7.9%、「無回答・非該当」が13.2%であった。自由意見では、「きちんとします」という声が聞かれた。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	25	3	0	10
「はい」が65.8%、「どちらともいえない」が7.9%、「無回答・非該当」が26.3%であった。自由意見では、「うれしいです」という声が聞かれた。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	20	4	2	12
「はい」が52.6%、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が5.3%、「無回答・非該当」が31.6%であった。自由意見では、「たすけてくれてうれしいです」という声が聞かれた。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	19	6	0	13
「はい」が50.0%、「どちらともいえない」が15.8%、「無回答・非該当」が34.2%あった。自由意見では、「職員だいすき」という声が聞かれた。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	12	3	0	23
「はい」が31.6%、「どちらともいえない」が7.9%、「無回答・非該当」が60.5%であった。自由意見は特になかった。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	15	3	0	20
「はい」が39.5%、「どちらともいえない」が7.9%、「無回答・非該当」が52.6%であった。自由意見は特になかった。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	7	0	1	30
「はい」が18.5%、「いいえ」が2.6%、「無回答・非該当」が78.9%であった。自由意見は特になかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える 〇非該当
	カテゴリー1の講評	
	<p>法人理念を日常の対話に重ねて職員へ伝えている</p> <p>法人では、学童クラブを安心と成長の場と位置づけ、成長に必要な経験を大切にするという理念を、採用時の説明や研修にとどめず、月1回のミーティングを通して繰り返し職員に伝えている。理念は抽象的な標語として掲げるのではなく、日々の子どもとの関わりや支援の考え方や結び付けて共有されている。具体的な事例を交えながら確認することで、職員が日常の判断を振り返る際の基準として位置付けられている。複数クラブを運営する法人として共通の考え方を土台としつつ、学童クラブの役割や価値を言葉で確かめる機会が継続して設けられている。</p> <p>法人理念を学童の実情に結び付けて位置付けている</p> <p>法人では、複数事業の一部として学童クラブを位置付けながらも、子どもの人数が比較的少なく、一人ひとりと密接に関わる場である点を重視している。障害のある子どもが多く在籍していることや、個別対応が求められる状況を踏まえ、「一人ひとりを大切に」という理念を学童クラブの実践と結び付けて整理している。年度目標や具体的な取り組みは、子どもの成長の姿や日々の変化を判断材料として設定されており、理念を日常の運営方針へ落とし込む形で具体化する中で、学童クラブの特性を踏まえた理念の解釈が共有されている。</p> <p>意思決定の場面で職員の視点を踏まえている</p> <p>日常運営や重要事項の意思決定では、クラブ内で完結する事項と法人判断が必要な事項を整理しながら進めている。施設長が検討テーマを提示し、常勤職員からの提案や意見を受けて協議する流れを取り、非常勤職員も含めて話し合う機会を確保している。特に、支援が必要な子どもや気になる行動が見られる子どもへの関わりなど、具体的な場面を共有しながら事実を基に意見交換を行っており、現場で積み重ねてきた視点や判断材料を踏まえた合意形成が図られている。</p>	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>利用者と地域の意向を運営判断に反映している</p> <p>利用者アンケートは実施後に常勤職員へ共有され、子どもの要望として全職員に伝えられている。実現可能な内容については常勤職員で検討し、運営に反映する流れが取られている。職員の意向については日常のミーティングや月例会議で意見を出し合い、行事や支援方法の検討材料として扱っている。地域の状況は協議会や学校との定期的な面談を通じて把握し、行政からの通達や法人内の情報共有も踏まえて運営に活用している。児童数や支援児の状況など経営的視点も確認しながら、対応すべき課題を整理している。</p> <p>理念を踏まえた計画と予算の整理を行っている</p> <p>法人理念の5つの柱を土台に、学童クラブを安心と成長の場とする方向性を整理している。中長期の明文化された計画書は示されていないが、児童数や支援が必要な子どもの状況を踏まえ、個別対応を重視する運営方針が継続的に共有されている。単年度の事業計画は子どもの成長を基準に策定され、4月に現場へ共有されている。予算や職員配置については法人が管理し、採用や年度予算の判断は法人とクラブの線引きのもとで整理されており、理念と現場運営の整合を意識した計画を整えている。</p> <p>計画の進捗確認を日常運営に組み込んでいる</p> <p>事業計画は子どもの成長を目標にとらえ、行事や日常活動を通じてどのような姿を目指すかを共有している。達成度は、時間のメリハリや当番活動への参加状況など、子どもの行動の変化を基準に判断している。計画の推進は常勤職員3名を中心に行われ、昼のミーティングや月例会議で進捗を確認している。行事後には小ミーティングで振り返りを行い、行動表に朱書きを加えて次回へ反映するなど、実施と確認を繰り返しながら運営を進める体制づくりをしている。</p>		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリ-3の講評

法令や倫理を日常の確認事項として共有している

法人では、就業規則や倫理に関する規程を採用時研修や年1回の研修で周知するだけでなく、日常のミーティングでも社会的な事件事例や市から共有される注意喚起を題材として取り上げている。法令遵守は文書確認にとどめず、子どもへの関わり方や配慮が必要な場面を具体的に振り返りながら共有している。過去に意識した着替え時の配慮や身体的接触への対応なども、実際の場面を踏まえて話題にし、職員が現場で判断する際の基準として整理している。

利用者の意向把握と権利擁護の体制を整えている

利用者の意向は入会説明会や保護者会、月1回のおたより、アプリ配信など複数の手段で把握している。利用者アンケートの結果は職員間で共有され、子どもの要望として運営の検討材料にしている。苦情や問い合わせについては常勤職員で内容を整理し、対応方針を確認した上で一斉または個別に返答する仕組みになっている。虐待防止については、就業規則や倫理規程を研修で周知し、日常のミーティングで具体的事例を取り上げて言動を振り返っている。虐待が疑われる場合には市や法人と共有し、関係機関と連携する体制を整えている。

地域との関係を組織的に位置付けて取り組んでいる

学童クラブの活動内容は入会説明会や保護者会、アプリ配信などを通じて発信されており、保護者や地域に対して日常の様子を伝えている。地域との関係づくりでは、染地地域の協議会に年2回参画し、民生委員や児童館、学校などと情報交換を行っている。副校長との定期的な面談も設け、学校との役割を整理しながら個別の子どもの状況を共有している。東京YWCAとして地域に根差してきた経緯を踏まえ、地域行事への参加やほかの学童クラブとの連携を通じて交流を重ね、地域ネットワークの一員として活動している。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>リスクを整理し計画的に対策を講じている</p> <p>事故や感染症、不審者対応、災害など事業運営を阻害する恐れのあるリスクについて、法人のマニュアルと市の指針を基に整理している。地震・火災・不審者を想定した避難訓練を年3回実施し、感染症や嘔吐処理への対応訓練も行っている。地域特性として河川氾濫の可能性を踏まえ、避難先を保護者へ周知を図っている。緊急時の判断権限や指示系統も明確にし、統括部門と連携する体制を整えている。事業継続計画は法人主導で整理が進められており、訓練後には振り返りを行い対応内容を確認している。</p> <p>日常の迷いや判断場面を共有しながら確認している</p> <p>職員への周知や実践状況の確認は、新任職員への説明や日々の打ち合わせを通して行っている。支援が必要な子どもへの関わりについては、大枠の考え方を共有した上で、実際の様子を見ながら対応の幅を調整している。目に見えないケガや判断が難しい場面については、屋の打ち合わせや月1回のミーティングで具体的な事例を取り上げ、どのように考えたか、どのような選択をしたかを共有している。迷いが生じやすい場面を話題にしながら、判断の経過を確認し、認識の差が生じないように整理することを心がけている。</p> <p>緊急時の判断と情報共有の流れを整えることを目指している</p> <p>緊急時の判断権限は施設長に置き、不在時には法人統括責任者である施設長や法人統括責任者である部長から常勤職員へ指示が行われる体制を整理している。小規模な緊急事態については、アプリを活用して保護者へ状況を配信し、帰宅判断につなげている。海拔が低い地域特性を踏まえ、河川氾濫時の避難先についても事前に保護者へ共有している。災害用伝言ダイヤルの訓練を年2回実施し、訓練後には子どもも含めた振り返りを行うことで、実際の場面を想定した対応手順を確認している。</p>		

5 カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー5の講評

学童職員としての役割を共有しながら育成している

法人では、子どもが自発的に巣立っていけるよう支援する役割を担っているのが学童クラブの職員であるとしている。新入職員に対しては、特定の担当者に任せるのではなく、日常の関わりを通して全職員が声をかけ合いながら育成を行っている。子どもの様子や支援の進め方を共有しながら経験を積み重ねる体制を取り、学童の特性を踏まえた関わり方を身に付けられるようにしている。施設長については、法人統括責任者である部長が面談や協議を重ねる形で支援を行い、役割をひとりで抱え込まない体制を整えている。

研修機会を工夫し現場への共有を行っている

研修への参加機会は、常勤職員だけでなく非常勤職員も参加しやすいよう配慮している。午前中の研修は就業時間として扱い、交通費を支給するなど参加の負担を軽減している。研修後は報告書を作成し、施設長から法人統括責任者へ報告した上で、ミーティングで内容を共有している。研修で得た知見は、子どもへの声かけや待つ姿勢、表示の仕方など具体的な場面に落とし込み、日常の関わりの中で実践している。学びを共有しながら、支援の質を高める取り組みを行っている。

自己評価や意見を運営の振り返りに用いている

自己評価の結果は常勤職員に共有し、利用者アンケートの内容についても子どもからの要望として全職員に伝えている。改善につながった事例として、挑戦前に諦めがちな子どもに対し、声を出してやってみる経験を積めるような関わりを行い、一輪車など新しい活動へつながった例が挙げられている。すべての意見をそのまま実現できるわけではないことも共有し、不公平感が生じないよう配慮する視点を確認している。施設長が日常の関わりを見て声かけを行い、職員の意欲を支える関わりもしている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度の重要課題として、「時間のメリハリをつけ、各児童が良い時間を過ごせるよう子ども達の意志を尊重する」ことを掲げた背景には、遊びから次の行動へ切り替える場面での難しさがあった。おやつや帰りの会の場面で、子どもが遊びに夢中になり、職員の声かけが届きにくく、行動の切り替えが遅れてしまう状況が見られていた。こうした状況を単に指示で整えるのではなく、学童クラブとして大切にしている「子どもの主体性を尊重する」という考え方に沿って改善することを目標とした。時計の針を示して時間を視覚的に伝えることや、「今動けば一番になれるよ」といった声かけを行い、子ども自身が時間を意識し、次の行動を選択できるよう支援する取り組みを進めた。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

取り組みの結果、帰りの会や支度の場面において、子どもが動き出すまでの時間が短くなり、行動の切り替えが以前より円滑になる様子が見られた。帰りの会で流している音楽についても、単に合図として用いるのではなく、支度の時間と結び付けて意識できるよう働きかけたことで、場面転換が分かりやすくなった。子ども同士で声をかけ合い、遅れている友だちを助ける姿も見られるようになり、役割意識の芽生えにもつながっている。一方で、場面や子どもの特性によって時間の意識の仕方には差があり、全員に同じ方法が当てはまるわけではないことも確認された。どのような声かけや合図が有効かを日常の中で振り返りながら、取り組みの効果を見極めている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度のもう一つの重要課題として、「自分の気持ちを言葉にし、相手に伝えることができない児童が多い」という点を挙げた。学校でのトラブルや友だち同士の行き違いが生じた際、その場では気持ちを表出できず、後になって「実は嫌だった」と伝えるケースが見られていたことが背景にある。学童クラブでは、単にトラブルを収めるのではなく、子どもが自分の気持ちをその場で言葉にし、相手に伝える経験を重ねることを重視した。職員が一方的に判断するのではなく、子どもの気持ちを丁寧に聞き取り、言葉を補いながら表現を支える関わりを、重要課題として位置付けて取り組んだ。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

具体的な取り組みとして、特に加配が必要な子どもに対しては、「何が嫌だったのか」「どの場面が困ったのか」といった選択肢を示しながら聞き取る関わりを行い、子どもの感情を整理する支援を行った。その結果、少しずつではあるが、自分の気持ちを言葉で伝えようとする姿が見られ、子ども同士で話し合いをしようとする場面も生まれてきている。職員が仲立ちをしながら気持ちを言葉にする経験を積むことで、自分の意見を伝えることへの抵抗が和らぐ様子がうかがえる。一方で、場面や相手との関係によっては言葉にすることの難しさが残るケースも確認されている。日常の関わりの中で子どもの変化を見守りながら、取り組みの成果と課題を継続して検証している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>利用希望者が入会までの流れを理解しやすい情報提供体制を構築している</p> <p>学童クラブの情報は、調布市のHPや子育て応援サイトを通じて広く発信されている。市HPでは、入会申請手続き、入会要件、学童クラブでの生活、育成料、児童館や放課後子供教室との違いなど、利用希望者が知りたい内容をわかりやすく整理して掲載している。今年度からはHP上で入会申し込みも可能となり、情報入手から手続きまでの流れがより円滑になっている。さらに、複数言語での情報提供に加え、文字サイズの拡大や色合い変更にも対応しており、多様な保護者の状況に配慮した情報提供の仕組みが整えられている。</p> <p>資料配付と説明会を組み合わせ保護者が安心できる情報提供を行っている</p> <p>入会や利用に関する情報提供は、資料の配付と説明の機会を組み合わせ、保護者が理解しやすい形で丁寧に行われている。市で配付する学童クラブ入会案内に加え、当クラブ独自の入会案内も施設で入手できるようにし、必要な時に情報を得られるようにしている。毎年2月には新入会説明会を開催し、施設長や常勤職員が案内資料をもとに具体的に説明しているほか、在籍保護者に対しても保護者説明会を実施している。また、学童クラブだよりや保護者会を通じて活動内容を継続的に伝え、日頃の様子を把握しやすいよう工夫している。</p> <p>問い合わせや見学に丁寧に応じ利用開始への不安軽減につなげている</p> <p>学童クラブの情報は、小学校や市児童青少年課へ提供されており、関係機関との連携を意識した情報共有が行われている。途中入会が決まった子どもについては、隣接する放課後子供教室「あそびバ」や学校の担任から情報を得て、受け入れ時の配慮に生かしている。問い合わせや見学の要望には、施設長や常勤職員が電話で対応し、日時調整や内容の記録を行いながら随時受け入れている。見学時には建物内の様子や生活スケジュール、遊びや行事、放課後子供教室との違い、連携方法、お迎えや集団帰宅の方法まで、個別の状況に応じて具体的に説明している。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	8/8
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>保護者と子どもの理解を深める説明と記録化を通じて円滑な利用開始につなげている</p> <p>サービス開始時には、新規入会の保護者全員を対象に入会説明会を実施し、学童クラブの基本的ルールや重要事項を丁寧に伝えていく。説明内容は、一日の流れや持ち物、出欠席や連絡方法、帰りの会や災害発生時の対応、育成料や間食費の納付手続きまで具体的であり、保護者が利用開始後の生活を見通せるものとなっている。また、新たに入会した子どもにはオリエンテーションを行い、施設の使い方や生活の仕方、学童クラブでの約束をわかりやすく説明している。さらに、個別面談では保護者や子どもの意向や要望を聞き取り、支援に活かしている。</p> <p>子どもの特性や交友関係を踏まえた支援により利用開始時の負担軽減を図っている</p> <p>サービス開始にあたっては、入会前の面談や保育園での聞き取り、訪問見学で得た情報に加え、「児童状況書」をもとに子どもの発達状況や保護者の状況を個別に把握し、職員間で共有して育成に生かしている。友だち関係や好きな遊び、得意なことや苦手なことも事前に捉え、利用前の生活を踏まえた支援につなげている。また、利用開始直後には、上級生が新入会の子どもを支える体制を整えるほか、班分けでは保育園や交友関係に配慮し、必要に応じて保護者の付き添いも依頼するなど、新しい環境への不安やストレスの軽減に丁寧に取り組んでいる。</p> <p>配慮が必要な子どもへの環境整備と卒会後を見据えた支援を丁寧に進めている</p> <p>配慮が必要な子どもや障害のある子どもの受け入れは、保育園からの聞き取りや保護者面談を通じて必要な情報を丁寧に把握し、個々の状況に応じた支援につなげている。アレルギーのある子どもについては「アレルギー調査書兼確認書」により情報を確認し、職員間で共有して安全な対応に生かしている。また、クールダウンの部屋を設けるなど、発達面で特に配慮が必要な子どもにも対応できる環境を整えている。さらに、隣接する放課後子供教室「あそびバ」や地域の児童館を案内し、行き来できる機会も設けるなど、卒会後を見据えた支援が行われている。</p>			

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
保護者との共有を図りながら子どもの状況に即した育成支援の計画を作成している 育成支援の計画は、前年度末に職員全体で実践を振り返り、その検討を踏まえて次年度の年間事業計画として作成している。計画内容は保護者会で説明し、保護者の理解を得ながら運用している。また、毎月の職員ミーティングでは、子どもの生活状況や遊びの様子を踏まえて目標を見直し、日々の支援に反映している。障害のある子どもや配慮が必要な子どもについては個別の育成目標を定め、達成状況を確認しながら次の支援につなげている。必要に応じて保護者面談を行い、アプリも活用しながらクラブでの様子を共有し、一人ひとりに応じた支援を行っている。 日々の記録と職員間共有を通じて子どもの状況を継続的に把握している 学童クラブでは、毎日の育成終了後に子どもの様子を育成日誌へ記録し、継続的に把握する体制を整えている。日々のミーティングでは前日の様子を職員間で確認し、ケガや病気、家庭環境、保護者からの連絡や相談内容も共有・記録して、その後の育成支援に生かしている。また、月末には振り返りを育成状況報告書にまとめ、市へ報告している。障害のある子どもや配慮が必要な子どもについては、障害児日誌や配慮児日誌に状況や援助内容を具体的に記録し、毎月の報告書作成にもつなげており、個別状況に応じた記録体制が整えられている。 職員間の連携と意見交換により柔軟で適切な育成支援につなげている 子どもの状況に関する情報は、日々の打ち合わせや職員ミーティングを通じて継続的に共有されており、子どもの様子や必要な支援について職員間で連携しながら育成にあたっている。毎月のミーティングや日常の打ち合わせでは、対象児への対応や課題について誰もが発言でき、トラブルや対応策もその都度共有されているため、支援を柔軟に調整できる体制となっている。さらに、配慮が必要な子どもについては、保育園からの聞き取りや保護者の了解を得るうえで対応につなげ、研修で得た知識も共有しながら職員全体の理解を深めている。			

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリー5の講評			
<p>子どもの羞恥心や安心感に配慮しながら適切な情報管理を行っている 学童クラブでは、市のマニュアルや法人の特定個人情報取扱規程に基づき、子どものプライバシー保護に組織的に取り組んでいる。個人情報の取り扱いについては、入会時に保護者へ説明したうえで同意書を取得し、写真や映像の撮影・使用、外部との情報共有が必要な場合にも、保護者の同意を得て対応している。また、トイレ介助や着替えの場面では同性職員が対応し、子どもの話を聞く際にも事務室など周囲の目に触れにくい場所を選ぶなど、日常の支援の中でも羞恥心や安心感に配慮した取り組みが行われている。</p> <p>子どもの思いや意見を丁寧に受け止め主体的に関われる機会を大切にしている 子どもの権利を守り、その意思を尊重するため、日常の援助では一人ひとりの個性や思いを丁寧に受け止めながら支援している。在籍児に1年生が多いことを踏まえ、集団生活のルールやマナーは、知らないことやできないことを前提に、全員で学び合えるようわかりやすく伝えている。また、普段の活動の中でも子どもの意見を丁寧に汲み取り、帰りの会では意見や提案を活動に反映している。さらに、お楽しみ会では代表の子どもが打ち合わせに参加し、おやつやゲーム、司会などを話し合っ決めており、子どもが主体的に関われる環境づくりを進めている。</p> <p>子どもの権利を守りながら暴力やいじめのない集団づくりに取り組んでいる 子ども同士の関係においては、トラブルが成長の過程で生じるものか、いじめに発展するおそれがあるものかを見極めながら対応している。必要な場面では職員が仲介に入り、互いの思いを丁寧に聞き取りながら、双方が納得できる話し合いにつなげている。また、日々の声かけを通じて、暴力やいじめが許されないことを子どもたちに伝え、予防にも努めている。さらに、学校や近隣の学童クラブとの情報交換を行うとともに、研修を通じて職員の意識向上にも取り組み、子どもの権利を守りながら安心して過ごせる環境づくりを組織的に進めている。</p>			

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー6の講評

必要な手引書を身近に備え職員が迅速に確認できる体制を整えている

業務の標準化に向けては、市が作成した学童クラブ職員マニュアルをはじめ、食物アレルギー対応、災害用伝言ダイヤル、台風接近時などの開設判断基準など、必要な手引書類を活用している。これらは全職員が業務中にすぐ確認できる場所に保管されており、判断に迷った際にも速やかに参照できる体制となっている。また、職員研修を通じて内容の周知を図ることで、日常の支援や対応が共通の基準と手順に沿って行われるよう努めており、安定したサービス提供を支える仕組みとして機能していることがうかがえる。

手引書の共有と見直しを重ねながらより適切なサービス提供につなげている

マニュアルの改定や新たな手引書の追加があった際には、施設長が職員ミーティングや研修会で説明を行い、内容の共有と理解の浸透を図っている。また、新年度に向けては新入会案内などの内容を職員間で協議し、必要に応じて見直しや変更を行っている。こうした取り組みにより、定められた手順を共有するだけでなく、実際の業務や利用者対応を踏まえて確認と改善を重ね、より適切なサービス提供につなげている。手引書を日常的な業務点検の基盤として活用しながら、運用の質向上にも取り組んでいる。

職員と利用者の声を生かしながら業務水準の見直しと向上を図っている

学童クラブでは、毎日のミーティングや月1回の職員ミーティングを通じて、子どもや保護者の状況、事業の実施状況を継続的に振り返り、業務の確認を行っている。日常の打ち合わせで出た課題や改善案は、毎月開催される法人の施設長会議に提出され、見直しにつなげる仕組みとしている。また、市が実施する利用者アンケートなどをもとに育成を振り返り、反映可能な意見をサービスに取り入れている。さらに、保護者や子どもの意見を聞く機会を設け、活動内容の工夫に生かしており、職員と利用者双方の声を踏まえながら、業務の質の向上に努めている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		29 / 29	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>日々の打ち合わせと情報共有により子どもの状況を共通理解している</p> <p>子どもの姿を把握しながら援助を行うため、午前出勤の常勤職員と午後出勤の非常勤職員がそろう時間を活用し全体打ち合わせを行い、前日の出来事や当日の流れ、注意点を共有している。外遊びの時間や活動内容はその日の状況によって変動するため、おやつ時間の変更も含めて柔軟に調整している。一日育成の日は活動量や生活の流れが大きく変わるため、職員配置や当番の確認も合わせて行っている。ケガや体調についてはボードを活用して可視化し、加配担当の配置も共有することで、誰がどの子どもを中心にしているかを把握できる体制としている。</p> <p>異年齢での関わりと役割活動を通して子どもの主体性を支えている</p> <p>子ども同士が関わり合えるよう6班の当番活動を取り入れ、おやつや掃除など毎日の当番表を用いて役割を明確にしておき、おやつや帰りの会などを通して、集団の中で自分の役割を意識できるようにしている。室内遊びは子どもが好きな遊びを選び、宿題や勉強についても自由度を持たせ、主体的に取り組めるようにしている。小学校が1クラス編成であることから異年齢の関わりが日常的にあり、上級生が下級生に声をかける姿も見られ、校庭での遊びの中でも6年生までが一緒に過ごすことで、自然な形で関係が育まれている。</p> <p>子どもの気持ちを尊重したトラブル対応を行うように努めている</p> <p>子ども同士のトラブルが生じた際は、職員が双方の話を聞きながら感情の整理を支えている。どちらの味方もしない姿勢を伝え、自分たちで話し合っ解決できるよう見守っている。必要に応じてクールダウン室を利用し、ほかの職員が応援に入るなど複数で対応する体制をとっている。加配職員は6名配置され、状況に応じて1対1の関わりを行い、気持ちの整理が難しい子どもへの対応を行っている。支援級在籍児など、突発的な出来事への対応が難しい子どもについては、帰宅後に職員間で当日の出来事を振り返り、保護者への連絡にもつながっている。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>遊びの内容に応じて空間を使い分け、主体的に過ごせる環境を整えている</p> <p>室内は活動内容に応じてスペースを分け、子どもが好きな遊びを選びやすいよう環境を整えている。入口付近にはコマ・けん玉など体を動かしたり友だちと関わったりできる遊びを配置し、奥には読書やブロックなど静かに遊べる場所を設けている。外遊びは子どもたちが楽しみにしている活動であり、授業終了後に校庭で遊ぶ時間を設けており、気候や校庭の状況に応じて体育館や室内活動へ切り替えるなど、安全面に配慮しながら柔軟に対応している。子どもが興味に合わせて活動を選択し、発達段階に応じた遊びや生活経験を積み重ねられるようにしている。</p> <p>帰りの会を活用し、子どもが主体的に集団活動へ関われるようにしている</p> <p>帰りの会では、当番の子どもが中心となって約束の確認や連絡事項の伝達を行っている。コース別やお迎えの子どもがまとまって並ぶ流れをつくり、ホワイトボードを用いて分かりやすく確認している。職員からのお知らせや行事案内、持ち物確認などを行う中で、子どもが自分の行動を意識できるようにし、秒当てゲームなど短時間の活動を取り入れ、気持ちを落ち着けて帰宅に向かえるよう工夫している。日々の積み重ねの中で、子どもが集団の一員として役割を持ち、自分から関わろうとする姿を育てる取り組みとなっている。</p> <p>異年齢の関わりを生かしながら生活習慣やルールの理解を深めている</p> <p>新1年生には学童生活の始まりに基本的な過ごし方を伝え、その後は上級生との関わりの中で生活習慣やルールを学べるようにしている。学校が1クラス編成で異年齢の交流が多い環境であることから、日常的に年上の子どもが年下の子どもへ教える姿が見られている。細かなルールを大人が一方向的に伝えるのではなく、子ども同士で考えながら決めていけるようにしており、遊びや玩具の使い方についても子どもたちが話し合っルールをつくる場面もある。困ったときには大人に相談することや、帰りの会で確認することなども継続して伝えている。</p>			

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価項目3の講評			
<p>子どもの希望を取り入れながら行事への参加意欲を高めている 行事は子どもが楽しみにできる機会となるよう工夫しており、日常の中で無理なく取り入れている。誕生日会は帰りの会の際にお祝いを行い、誕生日カードやキャンディレイを渡すなど、一人ひとりを大切にす取り組みとし、欠席した場合も登所時に改めて祝うなど、子どもの気持ちに配慮している。月1回のお楽しみ会では、3年生がリーダーとなり、ゲームや希望のおやつを取り入れながら司会進行も担っている。行事の大枠は職員が調整しつつも、内容には子どもの希望を反映させ、主体的に関われる機会として位置付けている。</p> <p>子ども同士で企画し、楽しみながら活動をつくる経験を重ねている 行事や特別活動では、子どもが意見を出し合いながら取り組める場面を設けている。夏休みには3年生を中心に夏祭りとして子どもが職員と一緒にお店コーナーを実施し、子どもが内容を考え、子どものための行事としてつくり上げている。水遊びでは水鉄砲や水風船を使い、校庭での活動を楽しむだけでなく、片付けやゴミ集めもゲーム感覚で行うなど、最後まで楽しめるようにしている。職員も一緒に活動を楽しむ姿勢を大切にしており、子どもとの距離感を近く保ちながら活動を支えている。子ども同士が関わり合い、経験を積み重ねられるよう支援している。</p> <p>保護者や学校と連携しながら行事を支えている 行事の案内や報告はコモンやお便りを活用して行い、保護者が内容を理解しやすいようにしている。恒例となっている芸術メンコ大会では、子どもが作成した作品を掲示し、保護者や職員、他学童にも投票してもらう形で実施している。対戦が苦手な子どもも作品づくりで参加できるようにし、多様な関わり方を認めることができる取り組みとなっている。一方で、より多くの子どもが参加できるよう規模を広げること、行事が長くなり間延びしてしまう場面があることを課題としており、内容や進行の工夫を検討している。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当	
評価項目4の講評			
<p>新入会児への丁寧な導入と関わりを通して通い続けやすい環境をつくっている 子どもが学童クラブに通い続けられるよう、新入会児への導入を丁寧に行っており、1年生には入会時に自己紹介の機会を設け、学童内や校庭を探検しながら場所や生活の流れを理解できるようにしている。活動の中では注意事項も伝えつつ、名札やロッカーの使い方などは上級生が自然に手伝う場面をつくり、子ども同士の関わりを生かした援助を行っている。兄弟関係なども背景に上級生が声をかける姿が日常的に見られ、子ども同士の支え合いが環境の一部となっている。遊びや活動を充実させるだけでなく、安心して過ごせる関係性を育てている。</p> <p>生活の見通しを持てるよう日々の声かけと掲示を活用している 子どもが主体的に生活できるよう、共通する生活の区切りをつくり、見通しを持って過ごせる環境づくりを行っている。掲示物を活用しながら予定や帰り方が分かるようにし、日々の声かけを通して子どもが自分の行動を確認できるようにしている。特に帰宅時間や帰り方の間違いが起きないように配慮し、子どもが困らないよう丁寧に援助している。家庭にも予定の共有を依頼し、子ども自身が把握できるよう連携を図っている。活動の流れを分かりやすく示すことで、子どもが受け身ではなく、自分で判断しながら行動できるようにしている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との日常的な情報共有により子どもの生活の連続性を支えている</p> <p>子どもが学校と学童クラブの双方で安心して生活できるよう、学校との情報共有を継続的に行っている。毎月の学校ミーティングを実施し、子どもの様子や気になる点について確認しているほか、日常の中でも教員や養護教諭から体調やケガに関する情報が伝えられるなど、必要に応じて連携が図られている。支援級とのやり取りでは年度当初に子どもの状況を確認し、学習面や学校での様子を共有している。学校と学童が隣接している環境を生かし、休み時間や体育の様子を把握できる機会もあり、子どもの生活全体を見通した援助につなげている。</p> <p>不登校や不安を抱える子どもについて学校と状況を共有しながら援助している</p> <p>不登校など課題を抱える子どもについては、学校と情報を共有しながら状況の把握に努めている。学童にこないケースや登所が不安定な場合も、学校側と連絡を取り合い、子どもの気持ちに配慮した対応を行っている。子ども自身が学校での出来事や状況を職員に伝えることもあり、その内容を踏まえて関わり方を調整している。遅れて登所する理由や当日の様子など、日常的な情報を積み重ねることで、子どもの不安を軽減できるようにしている。学校生活と放課後の生活を切り離さず、子どもの状況を多面的に捉えながら援助する姿勢が見られる。</p> <p>関係機関との連携を進める一方、担任と話し合う時間の確保を課題としている</p> <p>障害のある子どもや配慮が必要な子どもへの援助では、子ども発達支援センター「すこやか」と連携し、必要に応じて相談を行っている。支援級との情報交換では、年度初めに子どもの様子や学習面について確認し、学校での姿を学童での支援にいかしている。養護教諭から体調面の情報が伝えられることもあり、早めの迎えが必要な場合なども含めて対応できる体制となっている。授業時間と学童育成の時間が重なるため、担任と話し合う機会は限られているが、校長や副校長を含め、学校側が全校生徒の状況を把握していることから相談しやすい環境がある。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作り等に配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>当番活動を取り入れながら落ち着いておやつを楽しめる環境を整えている</p> <p>おやつ時間は落ち着いて過ごせるよう環境面に配慮しており、手洗いを行ったうえで呼ばれた班ごとに取りに来る流れとし、順番を守って行動できるようにしている。甘いもの・しょっぱいもの・ゼリーなど複数の種類をトレイに用意し、当番が中心となって配膳を進めている。走らないなどの約束を確認しながら進めることで、安全面にも配慮している。食後はゴミの片付けやテーブル拭き、椅子の整理などを子ども同士で分担し、当番が声をかけながら進めている。最後は職員が確認し清潔な状態を保つことで、次の活動へ気持ちよく移れるようにしている。</p> <p>子どもの生活リズムや自立を意識したおやつを提供を行っている</p> <p>おやつ提供にあたっては、子どもが自分でできることを増やせるよう、自立を意識した関わりを行っており、職員がすべてを行うのではなく、子ども同士で声をかけ合いながら準備や片付けを進められるよう見守っている。友だちとの関わりの中で行動できるよう援助し、必要以上に介入せず子どもの様子を見ながら援助している。一日育成の日は昼食後に食休みの時間を設け、本を読んだり静かに過ごしたりできる環境を整え、場合によっては横になって休めるようにしている。活動量や生活の流れを踏まえながら、無理なく過ごせる時間の使い方を工夫している。</p> <p>アレルギー対応では保護者と連携しながら安全な提供を行っている</p> <p>食物アレルギーのある子どもについては、保護者と連携しながら安全に配慮したおやつ提供を行っている。エピペンや内服薬の管理を行いながら、必要に応じて座席を分けるなどの対応を取っている。日常的に提供しているお菓子については保護者へ情報共有し、同じ内容のものを持参してもらうなどの協力体制を整えている。イベント時にはケーキなどの成分を事前に確認し、保護者に代替品を用意してもらう、または別のおやつを準備するなど柔軟に対応している。アイスなど複数種類がある場合は、本人と保護者に確認しながら選択できるようにしている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常の観察と声かけを通して子どもの健康維持と安全確保に努めている 子どもが安心して過ごせるよう、日常的に体調の変化を確認しながら援助を行っている。体調不良が見られた場合には、パーテーションを使用して落ち着いて休める環境を整え、職員がそばにつきながら様子を見守っている。必要に応じて体温測定や身体を冷やすなどの対応を行い、保護者へ連絡して迎えを依頼するなど、状況に応じた対応を取っている。外遊びでは季節を問わず水分補給の声かけを行い、冬場もこまめに体調確認を行っている。換気や空気の循環にも配慮し、子どもが健康に過ごせる環境づくりを継続している。</p> <p>研修と情報共有を通して健康・安全に関する対応力を高めている 医療的ケアが必要な子どもはいないが、ケガやアレルギー対応に備えた体制づくりを行っている。鼻血対応や外遊び時の安全配慮などについては研修で学び、必要に応じて活動内容を調整している。ケガがあった場合はその後の様子も継続して確認し、子どもの状態を丁寧に見守っている。アレルギー対応ではエピベン研修を年数回受講し、実践的な対応ができるよう準備している。ホットラインの共有やアレルギーファイルの管理を行い、面談時に保護者から確認した内容を職員間で把握している。家庭との連携も意識して健康維持に取り組んでいる。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労や家庭状況の変化に応じた柔軟な支援体制を整えている 学童クラブでは、育成時間申請届をもとに、保護者の就労や子育ての事情に応じた支援を行っている。年度途中に生じる状況の変化も踏まえて申請内容を見直し、急な時間変更にも柔軟に対応している。17時以降は保護者の迎えを必須としつつ、連絡アプリを活用して連絡を円滑に受け付けるなど、保護者の利便性にも配慮している。また、迎えを待つ子どもが少人数となる時間帯にも、主体的に取り組める遊びを用意し、安心して過ごせるよう工夫している。保護者の事情と子どもの生活の双方に目を向けた支援に取り組んでいる。</p> <p>保護者との対話と交流の機会を重ねながら信頼関係の構築を進めている 保護者との信頼関係づくりに向けては、年2回の保護者会を実施し、運営に関する意見交換に加え、保護者同士が交流できる機会を設けている。年1回の親子交流会では、スポーツや遊びを通じて親子、保護者同士、職員との関係を深めている。新入会保護者には夏休み前に個人面談を行い、子どもが学童クラブを楽しめているかや現在の課題を聞き取るとともに、学童クラブでの様子も丁寧に伝えている。日々のお迎え時や電話でのやり取りも、継続的な相互理解につなげており、信頼関係を深める着実な取り組みが継続的に行われている。</p> <p>連絡体制の充実と状況確認の徹底により安心して利用できる環境を築いている 保護者との協力による安全確保に向けては、連絡アプリを活用して出欠席や連絡事項を管理し、登所降所の状況も共有している。保護者は子どもの登所降所時間を確認でき、事前連絡との相違があった場合には、職員がすみやかに確認を行う体制としている。また、クラブだよりには活動写真や育成の様子が伝わる記事を掲載し、日常の姿を具体的に伝えている。日々の連絡や情報発信を通じて、保護者と職員が子どもの状況を共有し、安心して利用できる環境づくりを進めている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し子どもが多様な体験や学びに触れられる機会を広げている</p> <p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験を得られるよう取り組んでいる。併設小学校の校庭開放や隣接する放課後子供教室「あそびバ」との連携を図り、双方を行き来できるイベントも企画している。また、徒歩圏内にある法人施設の園庭やプロジェクターを活用し、屋外活動や映画鑑賞など、学童クラブ内だけでは得にくい体験の機会を広げている。さらに、警察署が公開している不審者対応の動画、避難訓練、外部講師による金銭教育も取り入れ、地域の力を生かした学びと経験の場を着実に広げていることがうかがえる。</p> <p>地域行事への参加と交流を通じて子どもの生活の場を地域へ広げている</p> <p>地域との交流機会として、学童クラブ主催の夏祭りでは、子どもが立候補して自分のコーナーをつくり、保護者や関係者に見学してもらう場を設けている。保護者も参加や手伝いに積極的であり、学童クラブを中心としたつながりが広がっている。また、国領センターオータムフェアや近隣児童館、祭りにも参加し、地域の子どもや大人と交流する機会を重ねている。さらに、近隣小学校や特別支援学校、養護学校とも情報共有を行い、子どもの生活の場と関係性を地域の中へ広げる取り組みを進めている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-2-1	事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている
タイトル①	判断に迷う場面を共有し安全意識の統一を図っている	
内容①	安全管理に関しては、マニュアルの整備に加え、日常の判断に迷いやすい場面を職員間で共有することに力を入れている。外見上は確認できないケガや対応の判断が難しい事例については、昼の打ち合わせや月1回のミーティングで具体的な状況を取り上げ、どのような視点で判断したかを確認している。新任職員に対しても、支援が必要な子どもへの関わりや育成室での対応について個別に説明を行い、理解の差が残らないよう調整している。日常の事例を通して認識を揃える取り組みを重ねている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている
タイトル②	育成の中で生活にメリハリを持たせ、安心して過ごせる環境づくりを行っている	
内容②	育成では、子どもが安心して過ごせる環境を大切にしながら、生活の中にメリハリを持たせることを意識している。思い切り遊ぶ時間と、話を聞いたり静かに過ごしたりする時間を設け、場面に応じた切り替えができるよう日々伝えている。体調やケガにつながる行動については理由を添えて伝え、子ども自身が気づけるよう援助している。また、疲れた様子が見られる時には声をかけ、無理をしないよう配慮している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域資源を生かした多様な体験と交流を通じて子どもの生活の幅を広げている	
内容③	地域資源を積極的に活用し、子どもが多様な体験と交流を重ねられる環境づくりに力を入れている。併設小学校の校庭開放や隣接する放課後子供教室「あそびバ」との連携、徒歩圏内にある法人施設の活用により、屋外活動や映画鑑賞など、学童クラブ内にとどまらない経験の機会を広げている。また、夏祭りでは子どもが立候補して自分のコーナーを担い、保護者や関係者と関わる場を設けている。さらに、地域の催しや近隣児童館、祭りにも参加し、地域との交流を深めながら、学童クラブを拠点とした地域とのつながりを豊かに育んでいる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの思いや意見を丁寧に受け止め主体性を育む支援を行っている
	内容	学童クラブでは、子どもの権利を尊重し、一人ひとりの思いや個性を丁寧に受け止めながら日々の支援を行っている。特に在籍児に1年生が多い状況を踏まえ、集団生活のルールやマナーは、知らないことやできないことを前提に、子どもが安心して学べるようわかりやすく伝えている。また、普段の活動や帰りの会を通じて子どもの意見や提案を丁寧に汲み取り、日々の活動に反映している。さらに、お楽しみ会では代表児童が打ち合わせに参加し、内容を話し合っ決めていくなど、子どもが主体的に関わり、自分の考えが生かされる環境づくりを進めている。
2	タイトル	放課後子供教室との連携を進め、多様な活動機会を確保している
	内容	染地小放課後子供教室と連携し、子どもがさまざまな活動に参加できる環境を整えている。月1回のミーティングを実施し、学校も交えて情報共有を行い、外遊びや行事などを一緒に進める場面も設けている。気になる子どもの姿についても共有しながら、双方の活動を行き来できる関係を築いている。工作週間への参加や夏休みの活動など、子どもの興味に応じて取り組める機会があり、職員自身が得意なことを生かし裁縫やマスコットづくりなど少人数でじっくり取り組む活動を行ったり、段ボール制作や動画づくりなどを子どもと一緒に実現している。
3	タイトル	法人理念を基盤に日常判断を積み重ねている
	内容	法人が示す理念や方針は、採用時や研修だけでなく、月1回のミーティングや日常の話し合いを通して職員に共有されている。理念は抽象的に示されるのではなく、子どもとの関わりや支援の考え方と結び付けて確認されており、日常の判断や振り返りのよりどころとなる存在になっている。意思決定の場面では、支援が必要な子どもや気になる場面など具体的な事実を基に職員間で話し合いが行われ、現場の視点を踏まえた判断につながっている。法人とクラブの役割を整理しながら、運営の方向性を共有する姿勢を確認することができる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	現場の実態を反映した手順書を整え業務の標準化をさらに高めることが期待される
	内容	事業所では、市が作成した「学童クラブ職員マニュアル」など、各種マニュアルを活用し、業務の標準化に取り組んでいる。一方で、日々の運営には事業所独自の工夫や、現場の実情に応じて判断している対応も少なくないと考えられる。そのため、市のマニュアルを基盤としつつ、事業所として実際に行っている支援の流れや留意点、判断基準を整理し、独自の手順書として明文化していくことが望まれる。実務に即した手引書が整備されることで、職員間の理解の統一が一層進み、経験差に左右されにくい安定した支援の提供にもつながると考えられる。
2	タイトル	多様な背景や感じ方の違いを捉え、共に過ごせる関わり方を課題としている
	内容	進級に向けて子どもの姿が変化する時期であることを踏まえ、一人ひとりの個性や背景の違いをどのように理解し、援助につなげていくかを課題としている。多様な背景を持つ子どもが在籍する中で、違いに目が向くこと自体は自然な反応として受け止めつつ、互いの違いを日常の関係の中で共に扱えるようにする必要があると捉えている。子どもの声をどう引き出すか、言葉にしにくい思いをどう受け止めるかについて職員間で話し合いを重ね、一人ひとりの思いをよりの確に捉え、日々の援助に反映していくことを課題としている。
3	タイトル	計画と振り返りの整理方法の明示が望まれる
	内容	事業計画は子どもの成長を軸に策定され、日常的なミーティングや行事後の振り返りを通して運営に反映している。一方で、計画段階と事業報告段階で表現や内容を意識的に書き分ける視点は限定的であり、振り返りの成果がどのような観点で整理されているのかは、職員間で必ずしも明確に共有されていない。日常の実践や判断は積み重ねられているため、それらをどのような基準で整理し、次の計画に結び付けているのかを言葉として整理することで、組織内での理解がより揃いやすくなると考えられる。